

試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオ試聴会 (2015.6.28) —DENON CD プレイヤーDCD-50 の試聴—

1. はじめに

ジョーシン日本橋1ばん館オーディオ試聴会で開催された DENON の新製品 CD プレイヤーDCD-50 の試聴会に行ってきました。デジタルアンプ PMA-50 や USB-DAC/ヘッドフォンアンプ DA-300USB も使って総合的に実力を検証するとの触れ込みでした。メーカーの資料を添付します。

http://av.watch.impress.co.jp/docs/news/20150514_701738.html

<http://manuals.denon.com/PMA50/JP/JA/>

<http://www.denon.jp/jp/da300usb/index.html>

今回の参加目的は CD プレイヤーDCD-50 よりも、むしろフルデジタルアンプの PMA-50 や DA-300USB の方の試聴にあります。なお、スピーカーは B&W の CM-10 が使用されました。

2. 試聴会の進行



試聴は、二つのルートで行われました。一つは DCD-50 をトランスポートとして使用し、デジタル入力で PMA-50 の内蔵 DAC で再生するルートで、もう一つは PC から

DA-300USB 経由で PMA-50 にアナログライン入力するルートです。

こういった試聴会では珍しくパワーポイントを使って DENON ブランドの歴史や個々の機器の仕様の詳細な説明があり、それに合わせて試聴を行っていました。

最初はおきまりの女性ボーカルの CD がかけられ、次いで foobar2000 によるオリジナル DSD 録音の DSD 音源の Native 再生がありました。CD ではすっきりとはしているが、若干デジタルアンプ臭い薄味の音かなと思って聴いていましたが、オリジナル DSD 音源のフルデジタル再生はディテールや音場感の再現でメリットがあるように感じました。PMA-50 の説明では、デジタルアンプのコア部分は英国の CSR という会社のものを使っており、高 S/N 比で低歪であるとのことでした。アナログ入力もありますが、これには A/D 変換部を通過しています。

引き続き、ボーカルとホテルカルフォルニアの 192KHzFLAC 配信音源がかかりましたが、後者は手元にあるホテルカルフォルニアのアナログに比べると音の薄さ、軽さが気にかかりました。次に 88.2KHzWAV のカンターテ・ドミノがかかりましたが、手元にあるアナログに比べると同様の印象でした。

次に DENON のサンプル音源で CD と DVDR で提供される 96KHzWAV 音源の比較がありました。若干後者の方に音の滑らかさで分があるように感じました。

ここで所用のため退席しましたが、クラシックのデモがなかったので、フルデジタルの再生の能力を十分に評価できず、現状では女性ボーカルを気軽に聴く程度のものという印象でした。しかしながら、デジタルアンプも随分進歩していると感じましたし、良質の外部クロックを入れて、DSD のオリジナル音源を聴いてみたいという期待感が出てきました。

以上